

保守3分裂の石川県知事選

馳新知事誕生



お隣の石川県で、28年ぶりに空く「知事の座」を巡り熾烈な保守系分裂選が展開され、元文部科学相の馳浩氏が制した。非自民・非共産勢力を出自とする谷本正憲知事に対し、生まれも育ちも自民、永田町、霞が関に顔が利く馳知事が誕生。自民内の支援先が割れる分裂選挙が全国で相次いでいる。石川県も自民県議の間には大きな溝ができ、来春の県議選に向けて波乱の要因になるのは間違いない。岡田自民党県連会長は「選挙後はノーサイド」と訴えるが、激戦の傷跡は深い。

馳氏19市町の10市町でトップ

任期満了に伴う石川県知事選は3月13日投票が行われ、即日開票の結果、元文部科学相の馳浩氏(60)が19万6432票を獲得して初当選を果た

し、28年ぶりに新たな県政のかじ取り役が誕生した。

次点の前金沢市長の山野之義氏(59)は18万8450票で、保守系候補の三つどもえを軸にした激戦を馳氏が7982票差で制した。前参院議員の山田修路氏(67)は17万2381票だった。投票率は61・